

## キャリア教育を視野に入れた道徳科の授業

いまき しげゆき いまさわ こうた  
今木 重行 ・ 今澤 宏太

### 1. はじめに

令和元年度から中学校でも道徳は教科化した。中学校学習指導要領解説「特別の教科道徳編」には、内容項目の取扱いとして、「関連的、発展的に捉え、年間指導計画の作成や指導に際して重点的な扱いを工夫することで、この効果を高めることができる。」とある。また、「生徒の発達段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。」とある。更には、「特別活動などにおける多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすことができるようにすること。」とある。

中学校キャリア教育の手引き（文部科学省）の目標・内容の例として、「総合的な学習の時間は、『自己の生き方を考えることができるようにする』を目標の一部としており、中学校の活動の例として『職業や自己の将来に関する学習活動』が示されている。また、『職業体験活動』などの学習活動を積極的に取り入れることが示されており、社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を促す教育であるキャリア教育とは深くかかわっている。さらに、職業や自己の将来に関する学習活動を行う際には、探究活動を通して、自己理解や将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすることが求められており、こうした学習を行うことによって、社会的、職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成を図ることができる」と考えられる。」とある。

これらの観点から、教科横断的学習により効果を向上させるべく、第2学年ではキャリア学習を軸として道徳科と学活・総合的な学習の時間においてカリキュラム・マネジメントを実施している。

今回の授業は「中学道徳 あすを生きる2（日本文教出版）18小さな工場の大仕事」を第2学年において行う。本教材は「それぞれの職業が社会の発展に貢献していることを理解し、将来の生き方について考えを深めようとする実践意欲を養う。」ことである。本校の第2学年キャリア学習の目標の一つとして「望ましい勤労観及び職業に関する知識を身につけ、自己の個性や適性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる。」というねらいがある。そこでキャリア学習で行われる職業体験学習と同じ時期に、この内容を取り扱いカリキュラム・マネジメントした。

学習指導の多様な展開として「教材を提示する方法としては、読み物教材の場合、教師の範読が一般的に行われている。その際、例えば、劇のように提示したり、音声や音楽の効果を生かしたりする工夫などが考えられる。」とある。また、「一冊にとじられたノートなどを活用することによって、生徒の学習を継続的に深めたいことができ、生徒の成長の記録として活用したり、評価に生かしたりすることもできる。」とある。そこでICTを利用し、朗読音声を聞いたり、発問を工夫したりするとともに、道徳ノートを活用することで多様な展開の工夫を試みた。

### 2. 発表教科報告

#### 2-1 研究動機

本校は、国立大学の附属学校として中高一貫教育に取り組んでいる。中高一貫教育には数多くの利点があるといえるが、中でも特筆できるのが、入学時点から高校卒業までの6年間を見据えた指導ができ、様々な経験を生徒が蓄積することができるという点である。実際、在籍する生徒の多くが附属高校天王寺校舎への進学を希望しており、その割合は例年第3学年の生徒で90%以上の高水準となっている。

このように、長期的な展望を持って中高一貫6年間の教育機会を望む声が多くある一方で、将来の生き方や将来の夢、希望についての生徒の考えは、漠然としたものが多い。本校の各学年では、自身の思いを語る

「終礼スピーチ」の活動を各学期に設けているが、第2学年のスピーチで自身の将来について問われたとき、「まだ何も考えられていない」や「とりあえず、親と同じ職業に就こうと思っている」などの声が聞こえてくる。

このような生徒の将来展望に関する実情を踏まえ、生徒が自らの人生や生き方への関心を高め、生きがいのある人生を実現しようとする意欲を育むことが必要であると考えた。そこで、1年後実際に進路の選択を迫られる第2学年において、特別の教科道徳を軸に、年間を通して将来の生き方について考える機会を設ける総合的な道徳教育のカリキュラムの開発を試みることにした。

## 2-2 目的

平成25年の教育再生実行会議による「いじめ問題等への対応について（第一次提言）」を契機とした道徳の教科化によって、道徳教育は学校や社会における様々な問題等への対応をも含め、本質的な問題解決に向かうよう求められている。そこで、上述の生徒の姿を踏まえ、内容項目C-13「勤労」において、社会における自らの役割や将来の生き方について考えさせるべく、道徳科の授業を設計する。

また、指導にあたっては、特別の教科道徳を要としながらも、総合的な道徳教育を計画するために、総合的な学習の時間、特別活動とのカリキュラム・マネジメントを図り、勤労の尊さや意義についての考えを深めることができるようにする。

## 3. 研究内容

### 3-1 対象者

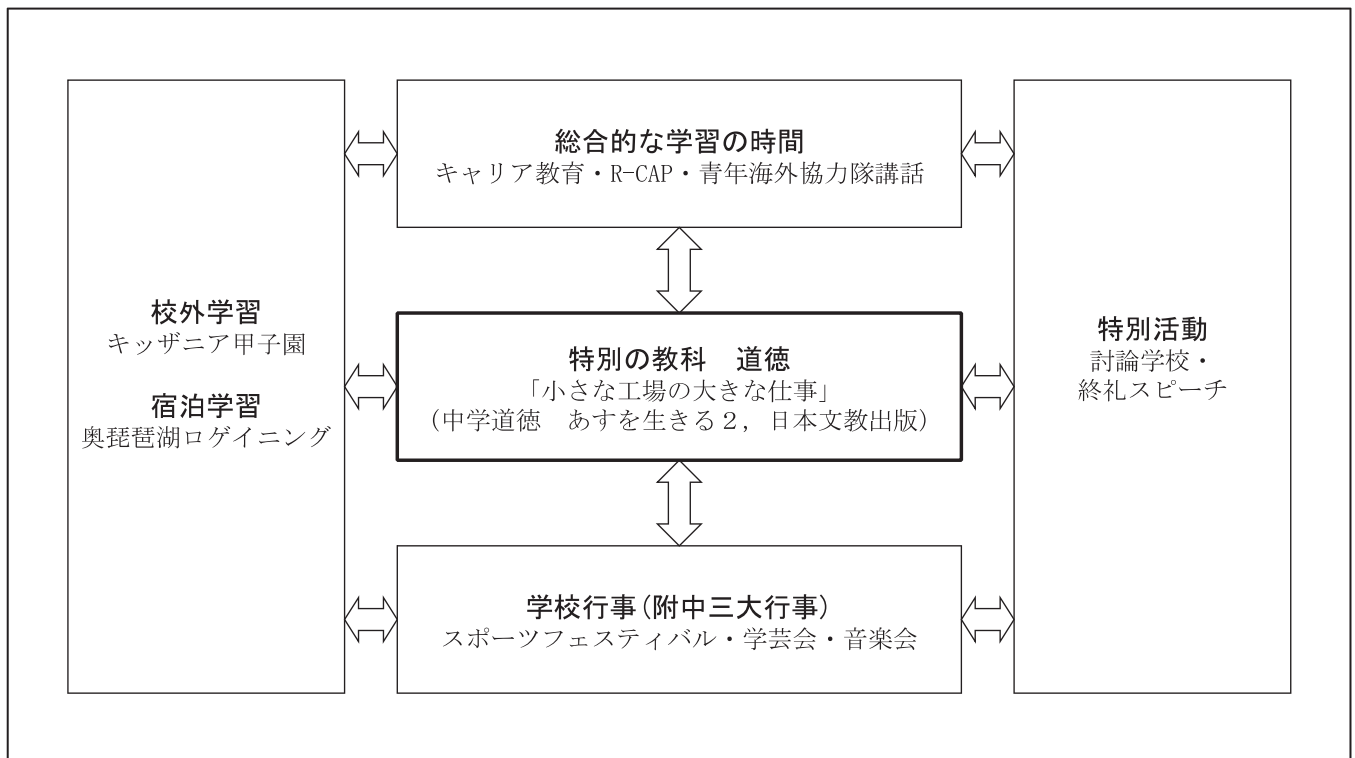
大阪教育大学附属天王寺中学校 74期生第2学年 144名（男子72名，女子72名）

### 3-2 研究方法

#### 3-2-1 カリキュラム開発

特別の教科道徳を軸に、総合的な学習の時間、特別活動などとのカリキュラム・マネジメントを図り、1年間を通じた総合的な道徳教育を計画した。

### カリキュラム全体図



## 学習指導のスケジュール

日程		内容
1	6月11日（金）	キャリアパスポートの作成
2	6月11日（金）	職業適性検査の実施
3	6月25日（金）	JICA 国際協力出前講座
4	9月28日（火） － 10月5日（金）	「小さな工場の大きな仕事」（中学道徳 あすを生きる2， 日本文教出版）
5	10月8日（金）	職業適性検査 結果返却・分析
6	10月15日（火）	キッザニアでの学習についてのオリエンテーション・ キッザニアの学習計画の立案
7	10月28日（木）	キッザニア校外学習（1日）
8	1月21日（金）	キャリアパスポートの作成

本カリキュラムを策定する上で、留意した点は次の3点である。

### （1）中核となる学習活動の設定と関連づけ

中学生の時期は、人生に関わる様々な問題について関心を持ち始める時期である。同時に自分自身の人生について考えを巡らせ、いかにによりよく生きるかを模索し始める時期でもある。このように、自身の将来について、学校教育において直接関わるのは特別の教科道徳であると考え、「小さな工場の大きな仕事」（中学道徳 あすを生きる2，日本文教出版）の授業を本カリキュラムの中核とすることとした。

その上で、広い視野から多面的・多角的に道徳的価値について考えを深めることができるよう、上記のように総合的な学習の時間の学習内容・時期を適切に配置するとともに、特別活動（スポーツフェスティバル・学芸会・音楽会、宿泊学習、討論学校）との有機的な関連づけに留意することとした。

### （2）体験的活動の充実と道徳科との往還

平成8年の中央教育審議会答申をきっかけに、平成13年に学校教育法の改正が行われ、教育指導を行うにあたっては、体験的な学習活動の充実に努めることとされた。体験活動を通して、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤を育み、子どもの成長の糧となる役割が期待されている。道徳教育における指導の多様な展開の重要性は現行の学習指導要領にも謳われており、体験的活動の中で感じたことや考えたことを道徳科の授業に生かすことで、より深い学びが実現できるようにすることとした。

### （3）保護者への周知と対応

道徳教育を推進していく上で、保護者の協力を得ることは大変重要である。特に、生徒にとって保護者は最も身近な大人であり、将来の生き方について相談できる相手となる。そのため、保護者に対しては、学年日より、学校ホームページなどで学習内容と生徒の様子を積極的に発信するとともに、懇談会など保護者と対面する際には、情報共有に努めた。

## 3-2-2 道徳の授業の工夫

現行学習指導要領には、学習指導の多様な展開として「教材を提示する方法としては、読み物教材の場合、教師の範読が一般的に行われている。その際、例えば、劇のように提示したり、音声や音楽の効果を生かしたりする工夫などが考えられる。」とある。また、「一冊にとじられたノートなどを活用することによって、生徒の学習を継続的に深めたていくことができ、生徒の成長の記録として活用したり、評価に生かしたりすることもできる。」とある。そこで朗読音声を聞いたり、発問を工夫したりするとともに、道徳ノートを活用することで多様な展開の工夫を試みた。

## 3-2-3 評価方法

今回の研究では、「心理測定尺度集VIの進路選択『“やりたいこと探し”の動機尺度』」（萩原・櫻井，2008）を利用し、本研究の成果を評価することとした。なお、本尺度は大学生が卒業後の進路を決定する上で“や

りたいこと探し”をする動機の自己決定性（自律性）を測定する尺度である。しかし、中学生に対しての評価に用いることも十分可能であると判断しこの尺度を用いた。ここでいう、“やりたいこと探し”とは、「自己の価値・興味にもとづいて、進路選択に関わる自己および環境の探索をおこなおうとすること。」と定義される。本調査をカリキュラムの前段・後段にそれぞれ1回行い、結果を比較することで評価を行う。項目は25項目あり、第1因子はやりたいことを考えること自体が自己の充足感を高めるという、自己決定的な動機を示す項目が多いため「自己充足志向」、第2因子は将来における自分の社会的立場を確保し安定させるという、自己決定の面で中間的な項目が多いため「社会的安定希求」、第3因子は、自分は周りの人に比べて出遅れており、それに追いつかねばならないという非自己決定的な項目が多いため「他者追随」である。

### 3-2-4 実施日

令和3年10月1日（金）・令和3年11月5日（金）の2回

### 3-2-5 評価項目

はじめに、あなたの卒業後の進路として「やりたいこと」を探すことについてお伺いします。

(1) あなたは「やりたいこと」を探していますか。以下の選択肢からあてはまるものを1つ選びましょう。

過去に探していた    探している    過去も今も探していない

(2) あなたが「やりたいこと探し」をしている理由について、以下のそれぞれの質問項目を読んで、探している人は、自分の気持ちにもっとも近いと思われる番号1つを選びましょう。過去に探していた人は、当時の自分の気持ちにもっとも近いと思われる番号を1つ選びましょう。過去も今も探していない人は、自分が探しているとしたらどんな理由で探すか想像して、番号を1つ選びましょう。

因子	項目
自己充足思考	目標があると充実できるから
	やりたいことは生きがいになると思うから
	やりたいことができれば楽しいから
	打ち込めるものを見つけたいから
	やりたいことならつらいことにも耐えられるから
	やりたいことをやりたいと思うから
	可能性をみつけたいから
	自分自身を向上させるのに必要だから
	やりたいことを考えるのが楽しいから
	何か目標を定めたから
	やりたいことがないと毎日がつまらないから
	自分がどのような人間か知りたいから
社会的安定希求	就職しなければならないから
	そろそろ将来のことを考えなければならないから
	将来の仕事を決めるうえで重要だから
	生活していくために必要だから
	人生を左右する大切なことだから
	今探さないと手遅れになってしまうから
	探さないと将来、後悔するから
	独立して一人前になりたいから
将来に不安を感じるから	
他者追随	周りの人はやりたいことを考えているから
	周りの人はすでにやりたいことが決まっているから
	身近に就職活動をしている人がいるから
	今の自分には、やりたいことがないから

#### 4. 道徳の授業の実際

##### 4-1 実施日と学級

令和3年9月28日（火）B組, 10月14日（木）C組, 10月19日（火）D組, 11月5日（金）A組

##### 4-2 教材・内容項目

小さな工場の大きな仕事（「あすを生きる2」日本文教出版, 2021）, C-(13) 勤労

##### 4-3 ねらい

それぞれの職業が社会の発展に貢献していることを理解し, 将来の生き方について考えを深めようとする実践意欲を養う。

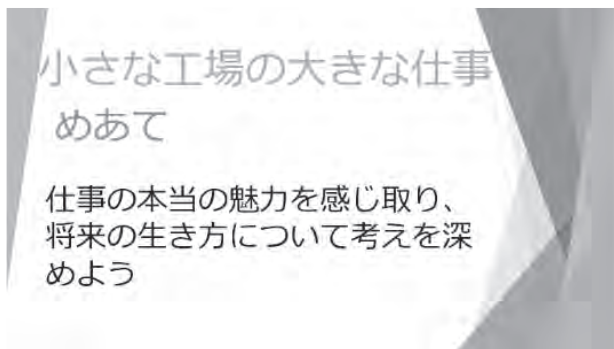
##### 4-4 教材の内容

小さな町工場に住んでいる主人公が, 職場体験や家族とのふれあいをとおして, 勤労や職業について理解を深めていく。前半では, 自分の家が小さな町工場で, 手を真っ黒にしたり, 油の臭いに囲まれた環境であったりしたので, あんな仕事はしたくないと思っていた。そのため, 今度の職場体験では大きな会社に行くことに決めていた。職場体験当日, 機械油の臭いが染みついていたので母が作ってくれた弁当を置いていってしまう。後半では, 兄から自分の工場でロケットの部品を作っている話を聞き, 無口な父もつぶやくように話をしてくれ, 今までとは違う父を知り, 父を誇らしく感じる事ができたという内容である。

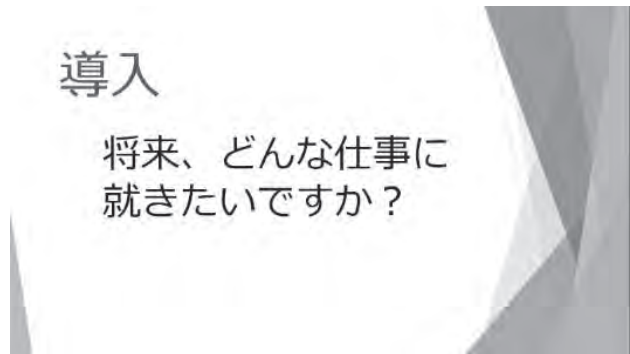
#### 4-5 本時の展開（2パターンの授業を展開）

	学習活動		指導上の留意点
	展開1	展開2	
導入	○将来、どんな職業に就きたいか。	○将来、どんな職業に就きたいですか？	・将来なりたい職業とその理由を自由に発表させる。
展開	<p>2 前半の資料を読み、考える。</p> <p><b>発問①</b> 「僕」は、自分の家の仕事についてどのように思っていたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地味な仕事で恥ずかしい</li> <li>・汚れて汚い</li> </ul> <p><b>発問②</b> 職場体験のとき、「僕」はどんな気持ちで弁当を置いていったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母には申し訳ないが、匂いがしてそうで持っていけない</li> <li>・周りが気になって気持ちよく食べられない</li> </ul>	<p>2 前半の資料を読み、考える。</p> <p><b>発問①</b> 「僕」は、自分の家の仕事についてどのように思っていたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地味な仕事で恥ずかしい</li> <li>・汚れて汚い</li> </ul> <p><b>発問②</b> 職場体験のとき、「僕」はどんな気持ちで弁当を置いていったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母には申し訳ないが、匂いがしてそうで持っていけない</li> <li>・周りが気になって気持ちよく食べられない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を前半と後半で分ける。</li> <li>・見た目などで職業を捉える中学生の現状を、「僕」の姿をとおして考えさせる。</li> <li>・母親が作ってくれた弁当を工場の象徴とし、ゲームソフトの会社と対置することで、「僕」の心の葛藤について考えさせる。</li> </ul>
	<p>3 後半緒資料を読み、考える。</p> <p><b>発問③</b> 父の「黒い手が、誇らしく見えました。」と「僕」が感じたのは、どうしてだろう。（4人での班活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すごいものを作っている誇らしい手と分かったから</li> <li>・地味な仕事ではなく、世の中にとって大切な仕事であり、父の手はその象徴であると気づいたから</li> </ul> <p><b>発問④</b> あなたにとって、「働く」とはどんなことを考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の役に立てること</li> <li>・誰かのために役立つこと</li> <li>・やりがいがあるもの</li> </ul>	<p>3 後半緒資料を読み、考える。</p> <p><b>発問③</b> ゲームソフト会社が「すごい」と感じた僕と父が「誇らしく見えた」時の僕は一体何が変わったのだろう。（班活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな工場でも世の中に役立つ部品を作っている父がすごいと思った</li> <li>・大きな会社でも小さな工場でも社会に貢献することができるかと分かった。</li> </ul> <p><b>発問④</b> あなたにとって、「働く」とはどんなことを考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の役に立てること</li> <li>・誰かのために役立つこと</li> <li>・やりがいがあるもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「カッコいい」「もうかる」という観点で職業を捉えていた「僕」の心の変容について考えさせ、職業についての見方を深めさせる。</li> <li>・父親の言葉や黒い手から働くことの意味を考えさせる。</li> <li>・グループの話し合いや友人の発言から気づかせる。</li> <li>・「誰のために働くのか。」「何のために働くのか。」について、自分のこととして考えさせる。</li> </ul>
	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>5 まとめを書く</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>5 まとめを書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜ教師になったのか」ビデオメッセージを流す。</li> </ul>
終末			

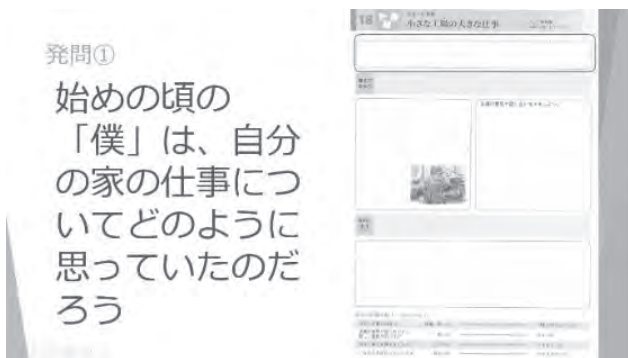
#### 4-6 授業で提示したパワーポイント



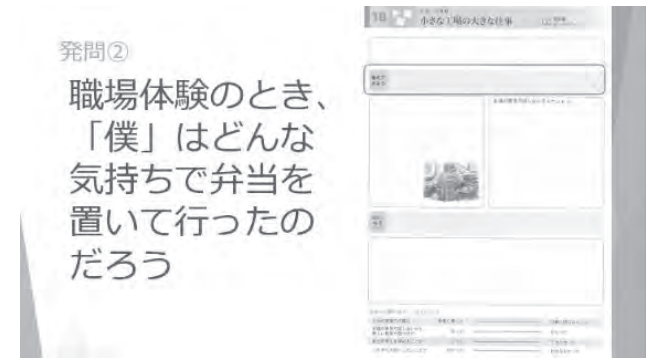
①



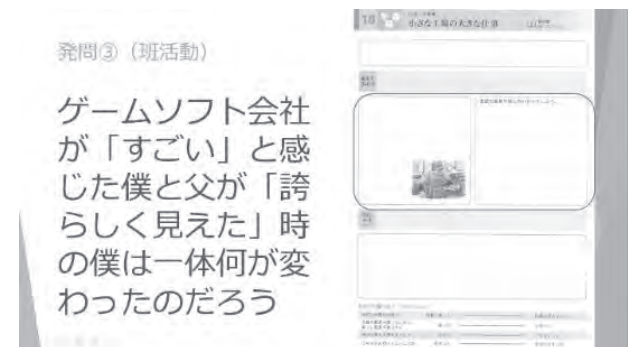
②



③



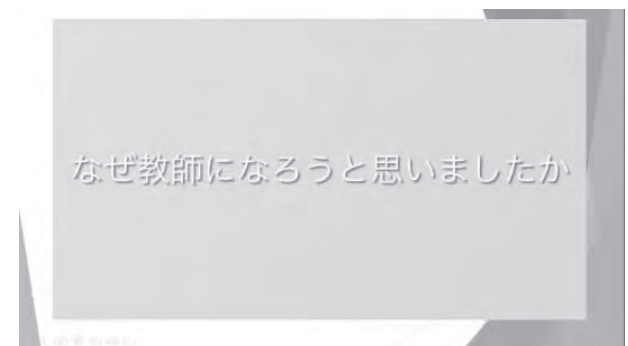
④



⑤



⑥

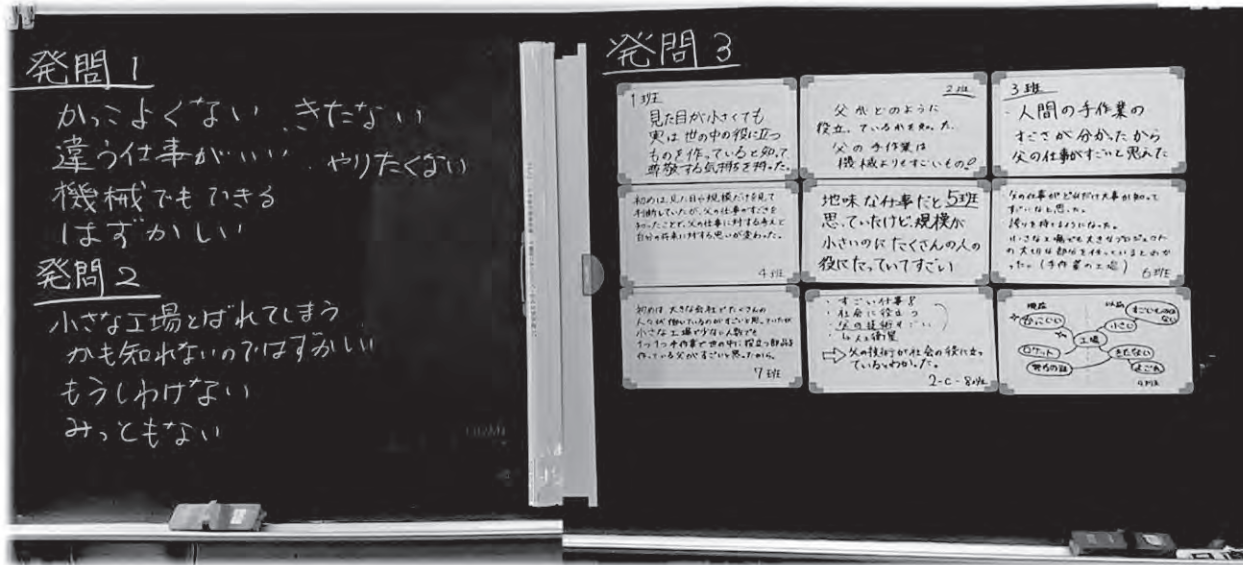


⑦



⑧

#### 4-7 板書の様子



### 5. 研究の結果と考察

#### 5-1 授業後の生徒の姿

##### 5-1-1 道徳の授業後の生徒の姿

発問3で班活動を進めていると、自分では一部しか気づいていないことでも班で意見を共有することで幅広く知ることができ、それらの意見を道徳ノートにまとめることができていた。

班活動前の意見	班活動後の意見
①ロケットなどの部品を作る父はすごい人で尊敬したため。父は職業を自分で選んだわけではないのに頑張っていてすごいと思った。	自分の父の作った部品が世の中で使われていて、それに対してやりがいを感じている父がすごいと思った。
②お父さんはすごい。	地味でも社会に貢献できる。仕事は見た目だけじゃない。仕事に対する意識が変わった。目立たない裏の仕事の良さを知った。
③会社の規模が大きかったり、機械をつかったり、きれいだったりするだけが良いとは限らない。	表で目立つカッコいい仕事だけでなく、裏でやる仕事もいい。家の仕事に誇らしさを感じた。
④機械やコンピュータだけがすごいのではないと気づかされ、父の仕事のすごさを知ったから。	はじめはあんな仕事はしたくないと決めつけていたが、決めつけていて申し訳ないと思った。機械にできないことをやっている。
⑤はじめは、見た目や規模だけを見て判断していた。けれど、兄や父の話聞いて自分が情けなく思えた。こんなにもすごい仕事をしているということを知らずに決めつけてしまったことを申し訳なく思った。内容や技術が大切。	父の仕事のすごさを知った。 将来への思い。 父への考え（仕事に対する）

これらの感想から、個々で考えたことを班活動につなげることで、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習につながったと考えられる。



次に、生徒が道徳ノートに書いた感想の一部を記す。

- ・自分の父の仕事はまだちゃんと理解していないので家に帰って父の仕事の話を聞いてみたいと思いました。自分の将来の仕事は何になるか分からないけど、他人に誇れて誰かのためになる仕事に就きたいと思いました。
- ・今回の授業を受け、自分が将来なるなら、どの職業がいいかを考えました。私は人を幸せにできる、人の役に立てる職種を探したいと思います。また、周りの人が幸せで、自分も幸せになれるのがベストだと思います。まだ、時間があるので、じっくり将来について決めていこうと思いました。
- ・今の自分は「僕」とおなじようにやりたいことの一部しか見ておらず、また、自分が知らない、あるいは興味を持っていないことに対して全く知ろうとしないと感じたため、これからはもっと様々なことに目線を向けて知っていきたい。
- ・かっこいい仕事は、外から見たものではなく、その仕事がどのように役に立っているのかなどの内面が大切なのだと思いました。まわりの目や意見は気にせず、自分のやりたいことや好きなことをしてよりよい人生を作り上げられたらいいなと思いました。
- ・自分は「やりたいな」と思える仕事が2つぐらいあって、まだ漠然としか決まっていらないが、自分がやってよかったと思えるよう、人のためになるよう努力していきたい。たとえ社会の中では軽んじられる仕事でも、この「小さな工場の大きな仕事」のようにたくさんの人の役に立てることもあるので将来の選択肢をもう一度見直したい。
- ・私はキャリア学習でやりたい職業を決めていたが、この学習を通して他の仕事も人の役に立てないかなともう一度探してみることにしました。
- ・「仕事をする」ことの大切さを知りました。10月末に校外学習でキッザニアに行くので、何のために働くのか、働くことの大切さなどかみしめながら校外学習に臨もうと思いました。

これらの感想から、勤労観に関する理解の伸長とともにカリキュラム・マネジメントの効果が伺える。

### 5-2-1 カリキュラム全体を通しての生徒の姿

カリキュラム全体の実際として、ある1人の男子生徒に着目をする。

この生徒は、カリキュラムの取り組みが始まった6月時点でキャリアパスポートに「アナウンサーになりたい。」と書いていた。

この回答をもとに、7月中旬に当該生徒に面談を行ったところ、「自分に向いているか分からないけど、テレビ局に興味がある。その中でもアナウンサーになってみたい。そのためにも、大学に行きたいと思うけど、理科系に興味があって、アナウンサーには関係がないかもしれない。アナウンサー以外には、プログラマーやシステムエンジニアに興味がある。大学では、そういう勉強をしたい。」と話していた。将来就きたい職業については、取り組みの当初で既に概ね展望が見られているが、動機や目的意識には漠然さが含まれている。

その後、10月上旬に行われた職業適性検査の返却で、「アナウンサー・レポーター」について職業適性があるという評価をされた。このことについて、この生徒に感想文を求めたところ、次の内容であった。「僕は、職業適性でアナウンサー・レポーターという職業に適性があると出ました。これから、人前で話すこと、アドリブ力、情報を正確に伝えること、この3つについて少しずつ力をつけていきたいと思いました。僕はその力をつけるために、放送委員をしています。そこで人に対して話すことの緊張に少しでも慣れれば良いと思っています。」アナウンサーに適性があるとのフィードバックを受け、自分に自信を感じることができた様子であった。さらに、委員会活動を通して自らに不足している力をつけていこうと、具体的な目標を定めるとともに、それに対する努力を始めている。

10月下旬に行われたキッザニア甲子園での校外学習では、テレビ大阪が提供する「テレビ局」のアクティビティに友人2人とともに参加した。「テレビ局」では、「キッザニア7ちゃんねる」というニュース・情報番組の制作を体験することができ、当該生徒はアナウンサー、他の2名の生徒は気象レポーター・ディレクターを体験した。この体験について、生徒へインタビューしたところ、「やりたい仕事を体験することができてよかった。日頃の視点とは異なって、アナウンサーからの視点はカメラマンやディレクターしか見えないことに気づいた。多くの人たちと一緒に番組をつくっていく過程は何より楽しかったし、こういう場

で仕事がやっぱりしたいと思った。」と答え、将来の職業・勤労についてより明確なものとなったといえる。上記は、1人の生徒に着目し、その変容を追ったものであるが、この生徒の変容からもカリキュラム・マネジメントの成果が伺え、この生徒にあたっては委員会活動という筆者の想定外の内容とも有機的な連携が生み出されていた。

## 5-2 “やりたいこと探し” 動機尺度アンケート結果と分析

### 5-2-1 “やりたいこと探し” 動機尺度アンケート結果

事前アンケート						事後アンケート					
項目	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	各項目平均	合計	項目	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	各項目平均	合計
自己充足志向	目標があると充実できるから	7.3	11	81.8	3.03	目標があると充実できるから	6.5	7.3	86.1	3.08	34.06
	やりたいことは生きがいになると思っているから	4.4	8.6	89	3.27	やりたいことは生きがいになると思っているから	8.5	13	80.5	3.13	
	やりたいことができれば楽しいから	2.2	3.7	94.1	3.46	やりたいことができれば楽しいから	1.6	4.9	93.5	3.36	
	打ち込めるものを見つけたいから	5.1	12.9	82.4	3.16	打ち込めるものを見つけたいから	9	9.8	71.3	2.63	
	やりたいことならつらいことにも耐えられるから	16.2	27.9	55.9	2.61	やりたいことならつらいことにも耐えられるから	24.4	26.8	48.3	2.61	
	やりたいことをやりたいと思っているから	2.2	8.1	89.7	3.38	やりたいことをやりたいと思っているから	0.8	12.2	87	3.29	
	可能性をみつけたいから	7.4	20.6	72	2.95	可能性をみつけたいから	7.3	18.7	73.9	2.93	
	自分自身を向上させるのに必要だから	6.6	16.2	77.2	3.06	自分自身を向上させるのに必要だから	4.9	14.6	80.5	3.04	
	やりたいことを考えるのが楽しいから	14.7	15.9	69.4	2.89	やりたいことを考えるのが楽しいから	24.4	23.8	52.4	2.53	
	何か目標を定めたから	19.1	23.5	57.4	2.67	何か目標を定めたから	26.8	24.1	48.3	2.48	
社会的安定希求	やりたいことがないと毎日つまらないから	27.8	22.8	58.6	2.75	やりたいことがないと毎日つまらないから	15.7	25.2	56.1	2.64	25.25
	自分がどのような人間になりたいから	27.8	25	47.1	2.47	自分がどのような人間になりたいから	29.3	19.5	51.2	2.47	
	就職しなければならぬから	11	14.7	74.3	2.97	就職しなければならぬから	17.9	18.5	62.6	2.75	
	そろそろ将来のことを考えなければならぬから	9.6	8.8	81.6	3.01	そろそろ将来のことを考えなければならぬから	9.8	15.4	74.9	2.88	
	将来の仕事を決めるうえで重要だから	5.6	10.3	83.8	3.14	将来の仕事を決めるうえで重要だから	3.2	5.7	91.1	3.21	
	生活していくために必要だから	8.1	15.9	75	3.03	生活していくために必要だから	11.3	13.8	74.8	2.9	
	人生を左右する大切なことだから	5.9	12.9	81.6	3.17	人生を左右する大切なことだから	4.1	13.6	82.2	3.08	
	予備金がないと手廻れになってしまうから	28.7	30.9	40.4	2.36	予備金がないと手廻れになってしまうから	25.5	26.8	44.7	2.35	
	探さないと将来、後悔するから	12.5	19.1	68.4	2.89	探さないと将来、後悔するから	13.1	25.8	60.2	2.79	
	後立して一人前になりたいから	15.4	19.9	64.7	2.77	後立して一人前になりたいから	17.1	17.1	65.9	2.72	
他者追随	将来に不安を感じるから	21.4	19.1	58.6	2.66	将来に不安を感じるから	20.3	23.6	56.1	2.59	7.726
	周りの人はやりたいことを考えているから	35.3	29.4	35.3	2.22	周りの人はやりたいことを考えているから	40.7	23.8	35.8	2.12	
	周りの人はすでにやりたいことが決まっているから	41.2	27.2	31.6	2.09	周りの人はすでにやりたいことが決まっているから	45.6	26.8	27.6	2	
	身近に就職活動をしている人がいるから	68.1	15.4	15.4	1.45	身近に就職活動をしている人がいるから	74.2	15.4	11.4	1.4	
今の自分には、やりたいことがないから	47.8	18.4	23.5	2.01	今の自分には、やりたいことがないから	41.4	20.3	38.5	2.2		

回答数 138

回答数 129

11/19現在

### 5-2-2 “やりたいこと探し” 動機尺度アンケートの分析

各項目の有意差を確認するため、本校中学2年生アンケートの1回目、2回目に対しt検定で分析を行った。t検定は事前と事後の平均値の差が、誤差の範囲の変化であるか、それ以上の変化であるかを確かめる統計手法である。その差が誤差の範囲を超える大きい効果と認められた場合にt値と有意水準（\*\*は1%水準、\*は5%水準で有意）を表に記し、誤差の範囲であまり変化が見られなかった場合は「n. s.」（有意ではないの意味）と記した。「1%水準で有意である」とは、本当は「有意でない」のに「有意である」として間違える確率が1%未満（100回に1回未満）であることを表す。結果は以下の通りである。

項 目		事前アンケート	事後アンケート	平均値の 変化分	t 検定
		各項目平均	各項目平均		
自己充足志向	目標があると充実できるから	3.031618	3.075735	0.044118	0.016087 ***
	やりたいことは生きがいになると思うから	3.266176	3.108824	-0.157353	
	やりたいことができれば楽しいから	3.460294	3.360294	0.1	
	打ち込めるものを見つけないから	3.163971	2.634559	0.529412	
	やりたいことならつらいことにも耐えられるから	2.611765	2.510294	-0.101471	
	やりたいことをやりたいと思うから	3.378676	3.294118	0.084559	
	可能性をみつけないから	2.950735	2.926471	0.024265	
	自分自身を向上させるのに必要だから	3.060294	3.042647	0.017647	
	やりたいことを考えるのが楽しいから	2.8875	2.525735	0.361765	
	何か目標を定めたから	2.666176	2.475735	0.190441	
	やりたいことがないと毎日がつまらないから	2.747794	2.641912	0.105882	
	自分がどのような人間か知りたいから	2.466176	2.468382	0.002206	
社会的安定希求	就職しなければならないから	2.974265	2.731618	0.242647	0.0196286 ***
	そろそろ将来のことを考えなければならないから	3.011029	2.875	0.136029	
	将来の仕事を決めるうえで重要だから	3.1375	3.211029	0.073529	
	生活していくために必要だから	3.033088	2.897794	0.135294	
	人生を左右する大切なことだから	3.173529	3.081618	0.091912	
	今探さないと手遅れになってしまうから	2.361765	2.354412	0.007353	
	探さないと将来、後悔するから	2.892647	2.793382	0.099265	
	独立して一人前になりたいから	2.774265	2.716176	0.058088	
	将来に不安を感じるから	2.661765	2.588971	0.072794	
他者追従	周りの人はやりたいことを考えているから	2.216912	2.124265	0.092647	0.8911915 n.s.
	周りの人はすでにやりたいことが決まっているから	2.091912	2.001471	0.090441	
	身近に就職活動をしている人がいるから	1.452206	1.398529	0.053676	
	今の自分には、やりたいことがないから	2.005882	2.201471	0.195588	

t 検定の結果から「自己充足志向」と「社会的安定希求」については有意差が確認できる。他者追従については、有意差がみられなかった。また、各項目平均を比較すると、事前と事後でスコアが減少していることがわかる。このことについては、生徒がキャリア学習を進めるにつれ、キャリアに関する認知が高まり、適正な自己評価に向かっているためではないかと推測する。

## 6. 講演

6-1 演題「キャリア教育を意識した道德の授業」

6-2 講師 服部敬一先生（成蹊大学教育学部）

6-3 講演内容

6-3-1 キャリア教育と道德の関係とは

キャリア教育の中に道德教育があるのか？道德教育の中にキャリア教育があるのか？と、いうわけではなく、教科横断で行われるものであり、キャリア教育で道德教育を行っていることもあれば、道德教育の中でキャリア教育を行っていることもある。どのように行っていくかはその時その時で違ってくるものである。ただ、道德の授業を職場体験の事前指導やまとめの時間に使われると道德の授業が軽んじられるのではないかと心配がある。

### 6-3-2 キャリア教育とは

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育【中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」平成23年1月31日】

「キャリア」の語源は、中世ラテン語の「車道」を期限とし、英語で競馬場や競技場のコースのトラック（行路、足跡）を意味するものであった。そこから人がたどる行路や足跡、経歴、遍歴なども意味するようになった。しかし、20世紀後半の産業構造の新たな変革期を迎え、「キャリア」は特定の職業や組織の中での働き方にとどまらず広く「働くこととのかかわりを通して個人の体験のつながりとしての生き様」を指すようになった【中学校キャリア教育の手引き】

キャリア教育は、時間割にはなく、指導要領の項目として載っているわけでもない。カリキュラム上の位置づけは学校の全教育活動の中で行う教科横断的な位置づけとなる。そのため、道徳や総合的な時間・社会などで行われることになってくる。つまり、「キャリア科」があるわけではなく、特に新しい教育活動をするわけではない。そのため「新しい教育活動を指すものではない」といった、従来の教育活動のままでよいという誤解がある。一方「体験活動が重要」という側面のみを捉え、職場活動の実施がキャリア教育という誤解もある。

### 6-3-3 道徳教育

学校の教育活動全体を通じて行う（学習指導要領）となっている。つまり、各教科、特別活動、総合的な時間などでも行われており、道徳性を養うことになっている。

### 6-3-4 特別な教科道徳

時間割の中に位置づけられており、年間35時間（週1時間）を計画的に行うことになっている。特別な教科道徳を要として道徳教育を全教育活動で行う（学習指導要領）。となっているが、現実として日々の道徳教育と授業としての道徳教育の二本立てになっている。目指すものは、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

### 6-3-5 特別の教科道徳でどのようにキャリア教育を行えばよいのか

社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力

勤労観・職業観など価値観、意欲・態度、創造力、論理的思考力、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力

【中高教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」平成23年1月31日】

特に特別な教科道徳でできることは「勤労観・職業観など価値観」を広げるなどが役割になってくる。

### 6-3-6 本日の授業について

「手を真っ黒にして」「カッコいい仕事」など資料のキーワードを1つずつ確認すると、勤労観や職業観などの価値観として、どれも否定する必要はないし、どれも価値あることである。道徳の授業では多くの価値を理解することが大切であり、その価値を最後に選択するのは生徒自身である。

## 7. 研究のまとめとインプリケーション

道徳ノートやスピーチ、アンケート結果から、カリキュラム・マネジメントを行った効果がみられたと考えられる。

しかし一方で、アンケート結果からも分かるように「自己充足志向」と「社会的安定希求」の2因子において、各項目平均が下がっており、長期的に勤労観を育成・伸長していくためには、引き続き道徳・総合・学活をはじめとし、各教科とのカリキュラム・マネジメントを継続して行っていく必要があるだろう。

### 注・参考文献

1. 押谷・柳沼（2014）「道徳の時代をつくる！」教育出版
2. 文部科学省（2018）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」教育出版
3. 日本キャリア教育学会（2008）「キャリア教育概説」東洋館出版
4. 堀洋道監修・吉田富二雄・宮本聡介編（2018）「心理測定尺度集VI」サイエンス社